

# ジャグパル



JugPal

1999年9月7日 第5号

## What's New

現在、国内には全国組織としてのジャグリングの(任意)団体が2つあり、それぞれが各々の夢に向かって活動を始めました。本号では代表者の方から設立に関する文章をいただきましたので、『別紙』で紹介させていただきます。



## ジャグリングと教育

### 【ジャグリングと教育について】

普段考えていることを簡単に書いてみる。

現在自分は「クラウン・コトラ」として沖縄で活動しているが、同時に小学校教員も目指している。中学校体育教師でレク指導者でもある父親の影響でマジックやバランス芸を遊びの中で自然と体に身につけていった。3ボールのカスケードも野球ボールで遊びながらやっていた。

最近の教育で「創造力」や「集中力」の必要性が叫ばれている中、ジャグリングや大道芸を通してどうにか子供たちに教えていけないかということ考えている。

自分はジャグリングや大道芸を「総合学習」的に捉えて指導している。

例えばただジャグリングをするだけでなく、

見せ方、表現の仕方の指導《小学校学習指導要領(以下省略)「体育」表現運動》、練習やステージに立ったときの感想を文章にする《「国語」内容B書くこと》、海外のビデオや本を見せたり読ませたりして練習する《「英語」、サイトスワップを考えさせたり、シガーボックスなど手作りをさせる《「算数」B量と測定、C図形、「図工」》、衣装を考える《「家庭科」図工》、BGMを考える《「音楽」》、地域との関わりを持ち積極的に行事に参加する《「道徳」》、学校行事に参加する《「特別活動」》、など。

考え方によってはもっといろんな形で学校の中のカリキュラムに導入できると思う。

97年春、教育実習に行った小学校の生徒を集め、ジャグリングを中心としたパフォーマンスチーム『コトラファミリー』を結成した。

彼等は特に問題のない普通の子もいれば、いつも呼び出されて指導を受けている子もいた。その子たちは現在、中学2年生になりもちろんまだまだ更生したとは言えないが、ジャグリングを通して人の前でショーをやることで自信を持ち、技術も付き他人にはできないことができる!ということでき生き生きとしている。

これまで10回近くの依頼を受けて、地域や学校のイベントに参加し、たくさんの人を楽しませている。

もちろん大道芸のイベントにも大道芸人として参加し投げ銭をもらうこともやっている。ジャグリングは問題行動や不登校、無気力、怠学生徒の新しいことを始める「きっかけ」作りにもとても威力を発揮できると考える。

コトラファミリーは今後もいくつかの依頼が来ており練習をがんばっている。同時に現在中学生のメンバーも全員希望高校への進学を目指して勉強もさせる予定である。

このメンバーの中から一人でもいかに有名人になってくれたらいいなあと思っている。これを読んでいるみなさん、沖縄に遊びに来たときは遊びに来て下さいね。またいろいろ御指導もよろしくお願ひします。

[Clown Performer KOTORA

<fwif1765@mb.infoweb.ne.jp>

<http://village.infoweb.ne.jp/kotora/index.html>]



## 【公開講座 「ジャグリング入門」】

琉球大学の公開講座として、ジャグリングを取り上げてみました。

5月15日・22日・29日、6月12日のそれぞれ2時から3時半まで全部で6時間で、受講料は5,500円でした。定員20名に対し受講者は18名(男8、女10)で、10代から50代まで幅広い年齢層の参加がありました。

初心者を対象に、3ボールカスケードを習得することを目標として企画した講座でしたが、実際にはもう少し進んだことまでとりあげることになりました。4回の講座の様子を簡単にふりかえってみます。

### 1回目：

ジャグリングの簡単な概説と道具の入手方法について話したあと、さっそく3ボールカスケードを練習しました。参加者の2/3はジャグリングは全くはじめてでしたが、ほぼ全員が10キャッチ以上できるようになりました。

### 2回目：

3ボールカスケードの復習をした後、カスケードを安定させるための練習について説明しました。カスケード以外の3ボールのパターンをいくつか紹介し、テニス、シーソーなどを実際に練習しました。また新聞紙クラブの作り方、クラブのスタート時のグリップについて説明しました。

### 3回目：

基本的なテイクアウェイ、パッシングとその練習方法について紹介しました。

その後、3個から6個のボールを使って二人1組のペアでテイクアウェイやパッシングの練習をしました。

特に5個ボールの3/3 side by side takeawayと4/4 round and round takeawayは楽しめたようです。

### 4回目：

サイトスワップについて説明し、3個、4個のサイトスワップをいくつか見せました。JuggleMasterによるアニメーションも見てもらいました。4個、5個ボールを習得するための練習方法について紹介し、片手で2個、1up 2upなどを練習しました。後半は3ボールのボディスローをいくつか紹介して練習しました。

公開講座のための場所の確保や資料の準備などはすべて自分でやらなければなりません。公開講座であれば大学の施設を利用するのは容易ですし、講座の開設時期や期間、時間等は自由に設定できます(例えば毎月1回ペースで1年やってもよいし、夏休みに1週間連続でやってもよい)。

また外部から講師をよぶこともできます(予算の範囲内で旅費と謝金が支払われる)。

国立大学の公開講座もなかなか利用価値がある仕組みだと思いました。

琉球大学の公開講座の一覧は、

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/open/> にあります。

[徳重 典英 <hide@edu.u-ryukyu.ac.jp>]



## レポート

### 【EJCに参加して】

#### - その4 言葉についてのヒント -

3回にわたってEJC(ヨーロッパ・ジャグリング・コンベンション)のレポートをしてきましたが、今回は、言葉について少し書きたいと思います。

参加してみて、これは英語で何ていうのだろう、こんな事を英語でしゃべりたかったなあ、と感じた事を思いっきり挙げてみます。

ジャグリングに言葉は要らない、ともいえますが、しゃべれたほうがコンベンションを効果的に体験できると思います。私はあまり英語は得意ではありませんので日本語で記します。どんなことが必要かを感じ取ってくださり、ぜひ次回参加する際にご自分のしゃべりやすいように訳していただければ幸いです。

#### あいさつ

「こんにちは」(見ず知らずの人でも目が合うとニコッと笑ったり、このように言ったりする。)

「どういたしまして」(ありがとうと言われて、咄嗟にでないものです。)

「大丈夫ですよ」(すみませんと言われて)

「ここに来るのに飛行機で～時間かかりました」(日本から来たと言うと大抵びっくりされる)

「あなたのお名前は」(今何時ですか)

#### 教えて貰う時

「教えていただけませんか」「コンは何ですか」私にはもう少し練習が必要なようです。教えてくださりありがとうございます。難しいですね。「どれくらいでこの技ができるようになりますか」(レクチャーを受けて自分が練習しているうちに、教えてくれた人がどこかへ行ってしまう、お礼を言いそびれたことも。

その技ができるようになってからお礼を言うのではなく、教えてくれたことに対してすぐに感謝の意を。)

「その技、素晴らしいですね。私もデビルスティックを練習しています」(「教えてください」の前段階。気持ち良く教えて貰うためにコミュニケーションを。)

#### ジャグリングに関する雑談

「ディアボロがもう少しうまくならない」、「まだはじめてばかりです」今、主に何を練習しているんですか」「何年位練習してますか」「コンベンションには今回で何回目ですか」「その道具はあそこのショップで買ったんですか」「今からここで何のワークショップが始まるのですか」「オランダではジャグリングをやる人は多いんですか」「何かやって見せてくれませんか」「私には難しい」、「これはできますか」「すみません、もう一度おっしゃって下さい」「ゆっくりしゃべって下さい」

ワークショップを効率良く受講するために、聞き取れるとなお良い。

「手の上、下」「体の後ろ、前」「頭の上を通して」「腕をねじって」「手首を使って」「回す」「腕を交差させて」「ひとつめのボールを投げてすぐに」「足の下をくぐらせて」「腕の上、手のひらに、手の甲に転がす」「ハンドスティックの手前側、外側」「内側、外側」「足を開く、閉じる」「足を曲げて、伸ばして」「水平に、垂直に」「立つ、しゃがむ、寝そべる、かがみこむ、胸を張る」「大きく、小さく演じる」「テンポ良く」「メリハリを付ける」「とめる、止まる」「押さえる、上から被せる」「ハンドさせる」「高く、低く上げる」「キャッチする」「パスする」「二人一組になってください」

よりコミュニケーションを取って、  
楽しく期間中を過ごすために。

「昼ごはんはもう食べましたか」「このレストランはどうですか」「おいしかったですか」「一緒にどうですか」「このあたりおいしいレストランをご存じですか」「昨日のショーは見ましたか」「ショーが面白かった。参考になった」「今までにこんなすばらしいショーを見たことがない」「ホテルに泊まっているんですか、それともテントですか」「どちらからいらっしゃったんですか」「ローマはどんなところですか」「日本は～なところですか」「一緒に練習ができて楽しかったです」「今回コンベンションに参加でき、有意義に過ごすことができました。」来年も会いましょう」

いかがでしたか。コンベンションでしゃべる言葉について書きました。

[喜多村 充伸]

編者補足：

喜多村さん、詳細なりレポートを何回にもわたり本当にありがとうございました。  
なお今年のEJCに関してはマラバリスタの青野さん <aotaku@pop12.odn.ne.jp>が参加され、ご本人のWebサイト<<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Suzuran/2722/france1.html>>でレポートされていますのでご覧ください

## 【天保山ワールドパフォーマンスフェスティバル】

7月20日から8月16日にかけて行われるこのフェス、近くにいながかなか見に行けない！横浜や静岡に行けて何故？お盆前私の仕事が結構忙しい＆お盆はご先祖様だなんだかんだでおじさん(私39才)は出かけにくい。しかも今年は祖父の初盆。理解ある妻のプッシュのおかげで、15日の1日だけですがはじめて見にいってきまして。その日のレポートをします。

天保山に12時10分前到着。す、すごい人。こりゃ大変だなあと思いつつその人の群れに近づく？？？これは海遊館(水族館)の入館待ちの行列。その横を通過して12時からのパフォーマンスポイントへ。そこには人の輪が出来ているはずなのに、スタッフ以外だれもいない。

恐る恐る聞く 私……  
「あの～、ここであるんですね？」  
「ええ、ミスタージョーンズあと5分で始まります。」  
信じられない！横浜や静岡の状態しか頭になかったんでカスカシー。

この日見た7人(組)のパフォーマンスの内、途中から見た一人を除いてすべて正面最前列GET！小雨の降る中でしたが充分楽しめました。

横浜や静岡のお客さんは、わざわざ大道芸を見に来た人達です。天保山は、水族館やミュージアムなどに来て帰りにたまたま何かやってるって感じで、立ち止まって見えています。

そして、投げ銭なんて全然するつもりがない人がほとんどです。パフォーマンスには厳しい条件。でもお財布をどうやって開けさせるかも芸のうち、腕の見せ所、皆さんプロでしたねえ！どこでも思うんですが、投げ銭しないタダ見の人や10円や50円玉をいれる人けっこういるんですねえ！かなしいですよ。

この日私が見たには7人(組)のパフォーマンスでした。その中一番楽しかったのは大阪市長賞(グランプリ)をみごと獲得した、3人組のアクロバットコメディショー、ザ・ジャンピングス(デンマーク)。

横浜で見たto be 2と良く似た雰囲気準備するのも3人がてんでバラバラに始めていつのまにか出来る。それもびったり同時に！アクロバットはto be 2のように高さはあまり感じませんが、とってもスピーディ！目が離せません。ジャグリング特にクラブのパッシングは息もピッタリで見ごたえがありました。

三雲いおりさん。キメの笑顔がとってもいいおなじみの三雲さん、楽しいおしゃべりは周りの人を引きずり込みます。

でも「35才過ぎたらバイキンだらけ！」には「オレもとっくにバイキンだ～」といつもドキッとす一言です。雨が少し降っていましたがその中ディアボロの投げ上げはかなり高く「ホー」でした。雨がだんだん強くなってゆく中この日見た一番の人垣でした。

静岡でジャパンカップのサンキュ-手塚さん。小雨の中、汗びっしょりの熱演でした。観客から協力してもらった、花束を持つ女の子もとってもかわいい感じの子でぴったりのセレクトだったと思います。

一匹のブタ(ぬいぐるみ)、名前は日によって変わるそうです。この日はタローさんの、スタントパフォーマンスの合間にミスタージョーンズさん(オランダ)の軽快なおしゃべりとジャグリングなどで楽しませてくれました。

ミスターチョップリンさん。チャップリン姿で手品と腹話術で楽しませてくれました。

はじめの予定にはなかった飛び入りのケッチさん。途中からしか見られませんでした。手品とパントマイム、ジャグリング、フィニッシュのラケットでのデビルスティック「ピー子ちゃん籠に入る！」はGOOD！！

最後は、レニー・ソロモンさん(アメリカ)「ジブンデシクリマシタ」のバイシクルホーンの組み合わせなどのいくつものブラス楽器の演奏。その合間にボールのジャグリングを見せてくれました。

3ボールはかなりスピーディー、トリックもたくさん見せてくれました。演奏とジャグリングどっちもすごいんだけれど、終わってからどっちを見た(聞いた)のかなあって感じでした。

8月16日午後行われたコンペティションは、(私は見に行けませんでした)招待パフォーマンス12組14名を2チームに分け、チーム対抗で優勝を競い、その中からもっとも優秀なパフォーマンスに与えられる、大阪市長賞(グランプリ)には、ザ・ジャンピングスが選ばれました。

一般参加のストリートパフォーマンス部門23組、ダンス部門23組から予選を通過した各部門4組から最優秀者には、それぞれ天保山ハーバーレレッジ賞には、カナル・ペキノア(日本)が、天保山マーケットプレース賞にはJOLT(日本)が選ばれました。

審査員特別賞には、私は静岡で見たことのあるチャイナ・ニエさんが受賞されました。

[大津ジャグリングクラブ 鳥本 正一  
<torisan@mx.biwa.ne.jp>]

## 【JA フェスティバル・レポート】

長年の憧れだった、国際ジャグリング・フェスティバルに、初めて参加してきました。場所はナイアガラ滝のアメリカ側で、期間は7月27日から31日の5日間です。「国際」と言っても、毎年アメリカで行われるので、参加者の大部分はアメリカ人です。今年の参加者は、全部で800人くらいだったそうです。日本からの参加者も徐々に増えているようで、今年は15人ほどが参加しました。ショーには、ヨーロッパ、アジアなどからも、多くのパフォーマーが招待されています。

IJAフェスティバルに参加するためには、IJAの会員にならなければなりません。会員になると、隔月で発行される雑誌JUGGLEが購読できます。日本で会員になるには、年会費は\$45となります。IJA会員登録と、フェスティバルの申し込みなどは、以下のIJA事務局にお問い合わせ下さい。

IJA / P.O. Box 218, Montague, MA 01351, USA

Phone: 413-367-2401 or 800-367-0160

Fax: 413-367-0259

e-mail: IJugglersA@aol.com

Web: <http://www.juggle.org/>

今回のIJAの参加費用は、

・会員登録 \$45

・参加費(5日分) \$250

・劇場へのバス代 \$15

合計\$310でした。他に、特別なワークショップに参加する場合は、別途費用がかかります。食事や宿泊費などは、個人持ちとなります。

メイン会場は、ナイアガラ滝から歩いて約15分の距離にある、NFCCC (Niagara Falls Convention & Civic Center) です。野球に使えるほどの巨大な体育館があり、ほぼ24時間自由に利用できます。中には宿泊費を浮かすために、体育館で寝ていた人もいたようです。周りには、小部屋やステージもあって、ワークショップや一部のショーが行われます。

### フェスティバルの1日

フェスティバル期間中の1日はこんな感じです。朝は10時ごろから各ワークショップが始まります。昼間はいろいろなワークショップを受けたり、周りのジャグラーと交流したり、個人的な練習をしたりします。うっかりしていると、食事をするのを忘れてしまうほど楽しい出来事がたくさん起こるでしょう。

夕方6時半になるとバスに乗り込み、夜8時から始まるショーを見るために出発します。ショーは2時間ほど続き、帰ってくると11時頃になります。そして、深夜12時から、ほぼ毎日ミッドナイトショーが行われます。終わるのは2時頃になることもあり、ホテルに帰って風呂に入ると、寝るのは3時くらいになってしまいます。まさに、朝から深夜までジャグリング漬けの毎日です。

### ショー

会期中はほぼ毎日、夜8時頃から何らかのショーが行われました。1、3、5日目のショーは、NFCCCからバスで30分ほどのところにある本格的な劇場が会場です。ショーが始まる前の劇場は、ペンシルバルーンを飛ばしたり、大きな風船が飛び回ったりして、大騒ぎとなります。とても日本ではお目にかかることはできない盛り上がり方です。もちろん、素晴らしい演技をしてくれたときにはスタンディングオベーションとなり、人を傷つけるような発言やマナーの悪い客にはブーイングが起きることもあります。パフォーマーだけでなく、観客からあふれ出るエネルギーにも、圧倒されてしまいました。

以下、各ショーについて、簡単にご紹介します。

### 1日目: Airjazz

Airjazzは、男2人(Peter Davison, Jon Held)と女性1人(Kezia Tenenbaum)のトリオです。結成したのは1982年で、既に解散しているのですが、毎年のように何らかの形でIJAに参加しています。今年は、3人で2時間にわたるショーを見せてくれました。

各メンバーが高い技術を持っているのはもちろんですが、ジャグリングを使ったユニークな動きにその持ち味があります。今回の公演では、昔のネタから、初めて見るものまで様々な演目がありました。特に、2人や3人で、動きをびたりと合わせて、おかしな動きをするのは、Airjazzならではの面白さでした。

### 2日目: Youth Showcase

18才以下の子供によるステージショー。チャンピオンシップのジュニアの出場者ほど技術レベルが高いわけではないのですが、かわいらしさや、子供らしい演出で楽しませてくれるショーでした。

特に、バレエをしながらフラワースティックをやった女の子は秀逸。ジャグリングしながらバレエを踊るのではなく、バレエの自然の動きにジャグリングを組み込んでいるように感じられました。

### 3日目: Championships

今年には出演者が多く、3時間半にもわたる長丁場でした。いくらジャグリングが好きでも、これだけ連続して見るのはつらいものがあります。2日に分けるなどの配慮が欲しいと思いました。17組の出演者がいて、全部は書ききれない(実はよく覚えていない)ので、個人部門の入賞者だけお知らせしましょう。

#### < Gold: Adam Kariotis >

去年はジュニア部門に出場し、サイトスワップを多用した、難度の高い技をノーマスで決めて優勝しました。今年には個人に出場して、見事金メダルを獲得。ルーチンは去年とほぼ同じでしたが、演出にジャグラーには珍しく、マジックを多用していました。まだ19歳ですが、豪華客船でショーをしていて、日本に寄ったこともあるそうです。

#### < Silver: Sean McKinney >

過去には、92年のJuniorで優勝していて、そのかっこ良さの虜になってしまったジャグラーは多いことでしょう。今年のChampionshipsに出ると聞いて、最大の注目でした。しかし、髪を短くし、最初から最後まで3ボールしかやらなかったのは意外。とはいうものの、そのかっこ良さは健在で、十分にショーン・マッキーニらしい魅力的な3ボールに、会場は多めに沸きました。

#### < Bronze: Jay Gilligan >

毎年出場しているのに、いつも新しいルーチンを用意してくれるのには驚かされます。今年、ミニチュアのジャンプ台3個を使って、ボールを転がしていました。そして後半では、3クラブで、初期のスタイルらしい並外れたトリックを見せてくれました。

今年のChampionshipsは、かなり見ごたえがあります。ぜひIJAからビデオを買ってご鑑賞下さい。

### 4日目: Gandini Juggling Project(GJP)

これまでほとんどヨーロッパでしか公演していなかったGJPが、北米のジャグリング・フェスティバルに初めて参加するとあって、注目を集めていました。出演者は男女2人ずつで、Sean Gandini, Kati Yla-Hokkala, Jay Gilligan, Cecile Ponseeです。



会場は、体育館の一部をセパレーターで区切っただけで、使った道具は、ごく普通のボール、クラブ、リング。一人の道具の数はほとんど3個で、ダンス的な振り付けと、複雑なコンビネーションが続く演技でした。スピードとパワーのアメリカンジャグリングとは違い、終始ヨーロッパ的なアートの雰囲気満ちていました。と言っても、全く意味不明の前衛アートというわけでもなく、時々クスクス笑わせてくれるようなユーモアも入っています。

何より驚異的なのは、4人が複雑に絡み合うダンスとジャグリングの振り付けを、1時間分覚えているということでしょう。GJPのワークショップで、高々10秒の振り付けを覚えるのにも、かなり苦労したので、身を持って実感しています。

ただし、ジャグラーに中でも、退屈だったという人と、面白かったという人に分かれていました。確かに、あのショーをお金を取って公演するのは、難しいでしょう。しかし、今回のフェスティバルで、彼らの果たした役割は非常に大きなものがありました。Championshipsに3人が出場。2つのワークショップ。これまでアメリカではあり得なかったショー。そのスタイルは、まだ十分に受け入れられたいとは言えないかもしれませんが、ジャグリングの多様性を広げてくれたと思います。

#### 5日目: Cascade of Stars Show

毎年最終日に行われる、スターの共演。今年は、長く前衛的な踊りや、いまいちのコメディが続いて、ジャグリングのショーとしては、面白いものが少なかったようです。

ジャグリングで良かったのは、トランプのジョーカーのような赤い衣装を着て、フープを7個まで投げた Vladimir Tsarkov。白いシンプルなクラブで、難度が高く、ユニークなトリックを見せてくれた Luke Wilson。彼は、Luca-Luca として、チームで Championships にも出場しています。

最後は今年の主演、Kris Kremo が登場。3ボール、シガーボックス、帽子などを使い、とても速くて、安定したルーチンでした。ただし、道具が地味ですし、ステージ慣れしすぎていて面白みがないように感じて、私には少し不満が残りました。彼は、1990年にも大とりで出場していますが、そのときと比べると、パワーが落ちているように思います。

#### ミッドナイトショー

今年は、3日目を除いた4日間、夜12時からのミッドナイトショーがありました。公式なショーと違って、出たい人が自由に出演できます。すごいものから、ばかばかしいもの、失敗ばかりしているものまで、玉石混交ですが、ジャグラーにしか分からないネタも多く、眠いのを我慢できれば、とても楽しむことができます。

最終日のミッドナイトショーには、日本人が4人も出場しました。マサヒロ水野さん、ヨーヨーの三居君、野仲君、そしてニュートンさん。皆アメリカ人にもとても評判が良く、スタンディングオベーションも起こっていました。

#### ワークショップ

今回のフェスティバルでは、84のワークショップが行われました。各1時間程度で、参加費は無料です。会場のスペースが許す限り自由に参加できて、つまらなければ途中で抜けても構いません。

UAでは、ほぼプログラム通りに運営されて、どのようなテーマのワークショップなのか、講師が誰なのか、あらかじめ知ることができます。

ワークショップと言っても、様々な形式があります。決まった講師が教える形式の普通の Workshop、あるテーマに関心を持つ人が集まって技を教え合う Breakout、ステージで新しい技やルーチンを披露する Demo など。

簡単にユニークな技を教えてくれるものや、有名人が講師をしているものに人気が集まっていました。普段の体育館では、とてつもなく上手い人ばかりに目が行ってしましますが、同じレベルのジャグラーも居ることが分かって安心できる場所でもあります。

#### Joggling

ジャグリングしながら走る、ジョグリングというマイナーな競技が行われます。速い人は、100メートル12秒で走る人もいますが、参加者が少ないですから、特に訓練していなくても、入賞できてしまうかもしれません。基本的にはピンバック3個をジャグリングしながら走るだけです。落としたり拾って続けることができます。

今年は、中嶋さんの誘いで、日本人のリレーチームを作ってエントリーしました。種目は1マイルリレーで、4人で各々トラック1周400メートルを走ります。実は、この種目の参加チームは3組だけでした。悪くても3位以内に入れるということです。しかも1つはおじさんチームです。

競技の結果は5分31秒で、堂々の2位でした。日本人初参加ですから、もちろん日本新記録です。この記録を破る自信のある方は、ぜひ来年出場して下さい。

#### UAビデオ

もし、UAに参加するのなら、UAで販売しているビデオをできるだけ多く見て、有名人の名前などを覚えていくことをお勧めします。体育館での練習中にも、近くを有名人がよく通りかかりますから、お話をしたり、記念写真を撮らせてもらうことができます。

新鮮さが薄れるというデメリットはありますが、ショーではたいていの人が新しいルーチンを披露してきてくれますから、「前と同じだからつまらない」ことは少ないでしょう。

UAフェスティバルは、日本でも紹介されることが多いので、知っているつもりになっていましたが、やはり実際に行くとこそ感じられる部分が多くあります。

ジャグリングが好きな人ならば、どんなレベルでも、英語ができなくても、十分に満足できます。来年は、これを読んで下さった方とお会いできることを楽しみにしています。

#### 写真説明:

今年のチャンピオン、Adam Kariotis (右が私)

[松岡 顕 <GBA03100@nifty.ne.jp>]



## 【キットサマーズワークショップ】

今年5月末から6月初旬にかけて、大阪と東京でアメリカ人ジャグラー、キット・サマーズによるワークショップが開かれました。昨年もちょうど同じ時期東京で開かれ、ジャグラーズ通信創刊号に西川正樹さん(現ロサンゼルス在住)からレポートが寄せられたのでご覧になった方も多いのではと思います。

昨年は、大阪のワークショップが直前にキャンセルされてしまった経緯があり、講師の無事の来日に気をもみましたが、予定通り、5/30-31大阪、6/6-7東京という日程で行うことができました。

あれから早3ヶ月が経とうとしていますが、今年のワークショップの準備から終了までの雰囲気をお伝えすべく、大阪ワークショップに携わった松浦から報告させて頂きます。ワークショップの準備、当日の内容、感想と合わせ、アンケートの結果も詳しく紹介したいと思います。

### 準備

思えば、今回のワークショップを行うかどうかという話を始めたのは、今年の2月でした。昨年の経験があるとは言え、半年以上前から動いていた昨年に比べ、遅い立ち上がりでした。3月初旬にはまず体育館の確保に動き始め、東京は昨年と同じ場所を確保することができました。

一方大阪は、当初当てにしていたサークル JUG の練習場所を週末確保するのは無理でしたが(体育館の長時間の確保って大変なんです)、幸い阪大の橋詰先生のご好意で阪大の体育館をお借りすることができました。

しかし、もう一つ大きな障害が立ちあはだかろうとは... というのも、4月に入って、東京の準備を進めておられた西川さんが、なんと、ワークショップ前にお仕事の関係で渡米されることが分かったのです！東京だけでなく、ワークショップの開催自体がピンチとなりました。昨年のお阪大キャンセルが頭をよぎりましたが、これもまた幸いにも、つづつオレンジの中嶋潤一郎さんが運営を快く引き受けて下さり、何とか開催が可能となりました。

募集を始めてからは、当初申込者数がなかなか増えず心配されましたが、直前一週間で申し込みが増え、結局大阪は2日間共に22名、東京は17名の方が参加ということになりました。中嶋さん、ナランハの宮越さんと私は、直前一ヶ月、申し込み受付をしたり、ビデオでワークショップの予習をしたり、テキストの製本をしたりしているうちに(もちろんワークショップ以外のお仕事もありますし...)、アツという間に当日を迎えました。

講師のキット・サマーズはワークショップの前日アメリカ、フィラデルフィアから成田経由で大阪の伊丹空港に到着し、関西滞在中は私の家に滞在しました。前日は彼の英語に慣れるためになるべく話をしたり、ワークショップの内容について確認したり、テキストの製本を手伝ってもらったりしました。

### ワークショップの内容

内容は昨年とほぼ同様ですが、簡単に説明しますと、プログラムはジャグリング上達のコツ、目標設定、パフォーマンスの仕方などについての講義とボール、クラブを使った実地の練習からなっています。講義では、小さなボードに書かれたトピックについて講師が話をし、区切りのいいところで訳していきます。

この時、参加者の人達は講義ノートを取っていきます。実地練習では、まずボール(2日目はクラブ)1個を使って技を行って雰囲気をつかみ、その後道具を2つ、3つと増やして技を完成させる、という流れで新しい技をどんどん行っていきます。

私が参加した大阪では、まずワークショップの行われた阪大の体育館は、バレーコートが二面取れる素晴らしいものでした(ここで練習している阪大の人達が羨ましい!!)。参加者の内訳は学生10名、その他15名。プロのパフォーマーの方も7、8名くらいいられていました。

今回のワークショップでユニークだったのは、ワークショップ開始直後、参加者の人達にボールを持って円に広がるよう指示し(これは前に彼のワークショップを受けた時にはなかったもので、ちょっと面食らいました)。皆に名前と今回学びたいことを言ってもらった後、講師は皆のボールを取ってある人に向かって投げいき、「ボールとジャレあって隣の人に投げていくように」と言いました。

参加者の人達は最初とまどっているようでしたが、彼はそんなことにはお構い無しに"Play! Just play!" などと言いながら、ボールをどんどん投げていきます。そのようにして一しきりボールが皆の間を飛んでいました。どうもこのセッションの中で、彼はボールと遊ぶことの大切さを伝えて、皆にリラックスしてもらいたいと思っていたようです。

2日間を通して、ワークショップは講師の情熱に引っ張られて、良いムードで進行していたと思います。実地練習では、参加者の方々は長時間本当に集中して練習していましたし(その分、もっと休みがほしかったという感想もありましたが)、講義でも、皆さんノートを取って熱心に聴いていたと思います。

ワークショップ全体の雰囲気をお伝えするには、やはり参加者の生の声をお聞かせするのが一番ということで、以下アンケート結果を詳しく紹介しましょう。

### アンケート結果

まずワークショップで良かったアイデアとしては、大きく分けると次の3種類がありました。

- (1)技: 特に、  
クラブのスタート(片手に3クラブ持って同時に投げ上げる)、  
クラブのキックアップ(交差した足の間に置いたクラブのキックアップ)、  
クラブのthrow & catch each side(真っ直ぐ投げ上げたクラブを背中から回した反対の手で取るというのを左右交互に行う)、  
ロールオーバーヘッド(頭にのせたクラブを回転させる)、など。
- (2)パフォーマンスの仕方
- (3)練習への姿勢:  
落としたら、その理由を良く考える。  
自分は出来ると信じて練習する。  
1日20分でもジャグる。

次に講義内容で印象に残った点としては、

- (1)講義内容に関して
  - ・技のつなぎ方を練習する。
  - ・リラックスしてゆっくり投げる。
  - ・ストリートショーについて、(違法かどうかをあまり気にせず)「とりあえずやってください」という言葉。
  - ・Confidence & Applause Points(自信を持つこと、拍手のポイントを作ること)。
  - ・格好よくジャグリングをする。
  - ・講義内容を書き留める時間をくれたこと。
  - ・精神論が意外に多かった。
  - ・数々の励みになる言葉。
- (2)その他
  - ・カリキュラムが良かった。
  - ・ジャグリングの教え方も学べて、今後サークル活動をしていく上で参考になった。
  - ・キットのワンポイントアドバイスは役立ったが、英語なもので、理解不足があったかもしれない。
  - ・参加者それぞれのレベルが高く、ついていくのがやっとなかった。

などが挙げられていました。

ワークショップで足りない点、改善すべき点としては、主に以下の2種類。

- (1)ワークショップの運営に関して
  - ・休憩をもっと入れてほしい(1~1.5時間に1回など)。
  - ・飲み物の用意。

時間を守って(教え漏れをなくす)。  
・ストレッチは最初と最後に皆と一緒にやる方がいい。  
・通訳は複数で。

- (2)ワークショップの講義, 練習内容に関して  
・5クラブのポイントが知りたかった。  
・リング, ディアボロ, デビルスティックのコーナを作ってほしかった。  
・自分達が練習する時間ももっとほしい。  
・パフォーマンスをするつもりはないので, 講義は退屈だった。  
・内容が2日にしては多く, しんどく感じた。  
・全体に急ぎ足だった(3-4日あればいい, 1週間程したい, など)。  
・講義の見出し(タイトル)の日本語訳も表示してほしい。

ワークショップ全体の感想としては, 主に3種類。

- (1)ワークショップの内容に対して  
・1ボール, 1クラブから始めるのはとっつきやすい。  
・新しい技を一度に学べて良かった。  
・4クラブもクラブパッシングもやらないとは思いませんでした。  
・講義, ジャグリングのどちらにも役に立った。  
・目標設定やモチベーションの高め方など, 精神面で多くの話が聞けたのが有益だった。  
・ジャグリングについての考え方から金銭取得まで, 全ての点で勉強になった。
- (2)講師に対して  
・一度ジャグラのトップに登りつめた人にしかできない素晴らしいワークショップでした。  
・キットの情熱のお陰が言葉の問題はありませんでした。  
・教え方が素晴らしくうまかった。  
・(休訳したもの)キット, あなたには驚かされた。あなたは全ての技を一度失ったのに, それらを学び直し, さらにその厳しい経験を糧に活動している。Great!
- (3)その他  
・こんなにジャグリングのワークショップが楽しく組み立てられるとは思わなかった。  
・一番ありがたかったのは, やる気が増したこと。  
・いろいろな人に出会えて良かった。  
・ジャグラ が集まる機会が重要。  
・直接教えてもらう機会がなかったもので, 助かった。  
・レベルが高く刺激になった。  
・今回のワークショップに参加できて最上級にうれしい。  
・とってもとっても楽しくて有意義な一日でした。  
・ベリベリハッピー~。超ハッピー~。

全体として今回のワークショップは良かったですか?」(5=良い, 1=良くない)という問に対しては, 殆んどの方に最高点をつけて頂きました。

感想

最後に, 今回のワークショップの個人的な感想を書かせて頂きます。

企画の当初は, 素晴らしいワークショップなので日本でもぜひ, という思いで突き進んだ感がありましたが, 色々な準備や料金を頂くことの重さに冷や汗が出てきたりも

して, それだけに無事終わって, とりあへずホッとしたというのが率直な感想です。

アンケートを見る限り, 一定の評価は頂いたような気がしますが, 一方で時間管理の甘さや, 講義や食事場所などに関して, 仕切りの悪いところなどもあったので, アンケートの中で頂いた意見と合わせて, 今後の課題したいと思います。

その他, 今回のワークショップの中で感じたことをいくつか書いてみます。

参加者の方々の熱心さ

これがやはり一番印象的でしたし, ワorkshop成功の一番の要因でもあると思います。考えてみると, 今回に限らずジャグリングのワークショップには, 参加者の目的意識の高さ, 実技を伴うこと, 数少ない機会であること, 代金が必要なことなど, 積極的な参加を促す要素が一杯詰まっているんですね。

そういう意味でジャグリングのワークショップは, 意外にやりやすいものなのかもしれません(特に, 学校の授業なんかと比べて)。

効果的なデモ, 技のポイント(拍手のポイントではありません)

技の説明では, 言葉による説明と合わせてデモンストレーションを行うので, 言葉の壁は殆んどなかったように思います。それに加えて, 練習を見て歩きながら与えるワンポイントアドバイスにはなるほどと感じました。結局人に教える際には, 技のポイントを明確に意識し, 簡潔な説明とデモを行うスキルが要求されるのだと思います。

参加者のニーズ

今回もそのような意見が散見されましたが, 参加者のレベルに差がありすぎたり, 求めるものが違ったりすれば(パフォーマンスを目指す人とそうでない人では, 求めるものが違って当然ですよ) 皆の満足できるワークショップにはならないので, まずはワークショップの対象, 目的を明確にすること, その上でワークショップの最中は参加者の各々のスキル, ニーズに配慮をする必要があると感じました。

・キット・サマーズについて

彼は, 今回のワークショップ中は高いテンションで自信に溢れた指導を行いました, 一緒に数日生活してみても, 普段は意外に物静かな人だと感じました。

パフォーマンスでも, 普段とパフォーマンスの時とで雰囲気が変わる人がいるということですが, 結局普段静と動, いずれかが優位であるにせよ, 内に持っている情熱, カリスマのようなものが大事なのだらうと感じました。

今年から来年にかけて, 新たにワークショップやジャグリングフェスティバルが開かれると聞いています。これからジャグリングは益々盛んになっていくでしょう(していきましょう!)。そのようなジャグリング界の明るい未来を楽しみにしつつ, 報告を終えたいと思います。

[松浦 昭洋 <QYK06757@nifty.ne.jp>]

謝辞:

今回のワークショップでは, 本当に多くの方々のご協力を頂きました。お世話になった全ての方にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

## LOVING CIRCUS

([http://www.geocities.co.jp/Hollywood/6282/loving\\_circus/lv\\_goodsshop.htm](http://www.geocities.co.jp/Hollywood/6282/loving_circus/lv_goodsshop.htm))

住所: 石川県石川郡鶴来町八幡128-1

電話: 07619-2-3930

取扱: ボール, シリコンボール, ビーンバッグ, ステージボール, バウンスボール, リング, クラブ, トーチ, ナイス, シガーボックス, ディアボロ, デビルスティック, バトン, フラワースティック, けん玉, ヨーヨー, シェイカースカップ, スピニングボール, ロープ, むち

前号紹介のジャグリングショップ「ナランハ」のURLとメールアドレスが変わりました。

新Website) <http://www.naranja.co.jp>

新E-mail) [info@naranja.co.jp](mailto:info@naranja.co.jp)

お店紹介





## お役立ち情報

### 【ジャグリング用品個人輸入の手引き】

ジャグリングをする人が増えてきて、最近では日本国内でも店頭や通信販売でジャグリング用品を手に入れることができるようになりました。海外からの通信販売に頼るしかなかった数年前とは隔世の感があります。

しかし、現在でも、国内で手に入る製品や書籍の種類には限りがあるようです。欲しいものが国内で売っていない時には、海外のメーカーやショップからの通信販売による個人輸入を試みるのもひとつの手です。

個人輸入の長所には、以下のようなものがあります。

- (1) 国内で取り扱われていないメーカーの商品が手に入る。
- (2) 国内で販売されていない商品が手に入る。特に新製品や特殊な製品、書籍、ビデオなど。
- (3) メーカーによってはクラブの装飾の色や模様を自由に指定することができ、自分だけのクラブを作ることができる。
- (4) 国内に在庫がない場合、直接注文したほうが早く手に入る。
- (5) メーカーによっては、実用上差し支えない軽度の不良品を二等品(seconds)として安く売ることがある。要問い合わせ。
- (6) カラーのカタログをもらえると、見て楽しい。

もうひとつ、途中で問屋や小売店をはさまないことにより安く購入できるという利点もありますが、ジャグリング用品の場合、商品価格に対して体積が大きいため送料(shipping fee)が結構かかります。そのため、ものによってはかえって高くつく可能性もありますので気をつけてください。

一方で短所としては以下のものがあります。

- (1) 実物を見て買えない(通信販売一般の欠点)。
- (2) 英語などで注文しなければならない。
- (3) 注文のしかたが悪い、店側の問題などで、注文に失敗するケースもあり得る。
- (4) 商品の間違い、破損などがあった場合、返品するにも海外への送料がかかり、交渉も面倒である。
- (5) ナイフは、銃刀法の取り締まり対象と判断され、税関を通らない場合がある。この場合、税関と警察に事情説明のために出向く必要があり面倒である。
- (6) 大きいものや重いものは送料が高い。

これらの問題を解決し、流通をスムーズにするために国内の業者があるのですから、国内業者の利用も念頭におき、個人輸入の長所と短所を良く考えた上で、自分の責任で個人輸入にチャレンジしてください。それほど難しいものではありません。(ただし、個人からの注文または日本からの注文に応じないメーカーも一部にあります。)

さて、個人輸入の方法ですが、だいたい以下の手順になります。

- (1) 代金支払いのため、クレジットカードを作る。

VISA または Master Card が良い。American Express は扱っていない店もある。JCB はまったく通用しない。国際為替で送る方法もあるにはありますが、クレジットカードの方が簡単なのでカードをお勧めします。

- (2) カタログを郵便、電子メール、FAX で請求する。

たいいていの店は日本からの請求に対しても無料でカタログを郵送してくれます。ただし、カタログを切らしてたり、商品名と値段だけで写真が載っていないかたりすることもあります。

メーカーではないジャグリングショップの場合、たいいてい写真はありません。

最近ではインターネット上に Web サイトを持っているところが多く、印刷したカタログを取り寄せなくても、写真入りの商品説明をインターネット上で見るすることができます。新製品情報や二等品の安売りなどの新しい情報は Web サイト上に先に出ますので、インターネットを利用できる人にはお勧めです。

アメリカの 1-800 で始まる電話番号、FAX 番号は、フリーダイヤルなので、日本からはかけられませんから注意してください。なお、無料で送ってくれるからといって買う気もないのにカタログを請求するのは、店に迷惑ですからやめましょう。

- (3) 商品を選んで注文票を書く。

注文の際には、以下の点に注意すると、商品の間違いや発送の遅れを防ぐことができます。実際の注文の前に在庫があるかどうかを前もって確認しておく、無用なトラブル避けられます。

a. (あれば)商品番号、商品名、色、個数、サイズなどをめれなく指定する。クラブの場合、ハンドルの長さや装飾方法の指定も必要な場合があります。

b. 自分の名前、住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレスを明記する。注文に不備があった場合や商品が在庫切れだった場合などに、店から問い合わせが来ることがあるので忘れずに書きましょう。

c. 特定の色が在庫切れの場合もあり得るので、その場合にどうするかを指定する。他の色でも良ければ第 2 希望を書く。特定の色がなければ注文を取り消す、特定の色が入荷するまで待ってから出荷してもらおう、という選択肢もあります。

d. いくつか注文した商品の中で一部が在庫切れの場合、他のものを先に送ってもらうか、全部の商品が揃ってから発送してもらうかを指定する。

e. 特殊な装飾のクラブなど、注文を受けてから作るものは時間がかかります。他のものといっしょに注文すると、それらまで発送が遅れるので、特に急ぐ場合は注文を分けるなどの工夫が必要です。電子メールや FAX による注文では、在庫切れの場合(c, d)には店のほうから対処法を尋ねてきますが、あらかじめ書いておいたほうが確実です。

- (4) 発送方法を指定する。

多くの店では、航空小包、国際宅配便、船便の選択肢があります。船便は、送料は安いですが、1ヶ月以上かかることを覚悟する必要があります。航空小包、国際宅配便は、在庫があれば、ともに1週間程度で届きます。値段の高い方がその分早く届くのかも知れませんが、せいぜい数日の差ですし、いろいろな事情で配達日数が変動することもあるので、安い方で十分でしょう。安くあげたいなら、十分余裕を持って船便で注文し、気長に待つことです。

- (5) 代金、送料を計算し、支払方法を指定する。

a. 代金と送料を合計して、合計金額を計算します。日本から注文する場合、店の所在地の国や州の税金はかかりません。もし、合計金額の計算が多少間違っても店のほうで正しく計算して請求してくれますから問題ありません。



b. クレジットカードの種類、番号、有効期限を忘れずに書きます。店によっては署名も要求しますので、常に署名をしたほうがよいでしょう。  
漢字で署名する人は、それが署名だとわかるように Signature と横に書き、ローマ字での名前も併記します。  
なお、カード盗用の疑いを避けるため、商品の送り先の住所は、クレジットカード会社に登録されている住所にするのが無難です。

(重要)

電子メールで注文する場合、クレジットカードの情報を電子メールで送ってはいけません。盗聴されて悪用される恐れがあります。クレジットカード情報だけは FAX で送りましょう。また、インターネット上の Web サイトから注文することができる店もありますが、クレジットカード情報入力部分が暗号化によって保護されていることが確実でない場合は、利用を避けましょう。

(6) 注文票を送ります。

郵便はやり取りに時間がかかるのであまり勧めません。電話は言葉の問題や時差の問題があるので、いろいろ面倒です。速くて時差の問題もない FAX あるいは電子メールを勧めます。可能なら、お互いに国際電話代の負担が不要な電子メールを使いましょう。ただし、店によっては、電子メールよりも Web サイトでの注文表記入を勧めているところもあります。

注文を受けたことの確認(confirmation)を電子メール(なければ FAX)で送ってもらうように頼んでおくとう安心です。何日か経っても確認が来ない場合は、まず、こちらから再度問合せます。失敗したと思っても、いきなり注文を再送すると同じものが2組届いてしまう恐れがありますから、まず問合せましょう。

(7) 商品が届くのを待ちます。

税関で日本の消費税が課税されることがありますが、国際宅配便業者または郵便局が立て替えてくれますので、配達のとときに支払えば大丈夫です。面倒なことはありません。

また、個人で少量を輸入する場合、課税されないで済むこともあります。

もっと細かく注文の文例などを書こうかとも思いましたが、ケースバイケースで変わってきますし、なによりお金が絡むことであり、落とし穴もいくらかあるのでやめておきます。個人輸入については詳しい手引書がたくさん出ていますので、それらを参照することをお勧めします。

英語の文面については、余計な挨拶や気の利いた言い回しは不要です。自分の欲しいものをはっきりと分かりやすく箇条書きにし、必要な情報を漏れなく書くことに専念しましょう。

同様に、万一、商品の間違いや大幅な発送の遅れなどの問題があったときは、自分がどうして欲しいのかだけを簡潔に書きましょう。単刀直入で無礼なのではないかという気遣いは必要ありません。

英語での注文をむやみに恐れる必要はありませんが、まったく英語に自信がない人は、無理をせず、英語のできる知人に頼むなり、日本の業者から購入することを考えましょう。

意味不明瞭な注文を受けた側も迷惑しますし、最悪の場合、商品が届かなくて注文した側も不快な思いをすることになります。なお、翻訳ソフトウェアは、ジャグリング用品名や用語を正しく訳してくれないので、使い物にはなりません。

相手が必要とする情報を正しく提供すれば、海外通販は難しいことはありません。今までためらっていた人は、ぜひ一度チャレンジしてみてください。

「で、どこから海外通販できるの?」と思った読者の方、申し訳ありません。最新の情報を確認するべく、いろいろなメーカーやショップへ問い合わせのメールを送ったのですが、締切までにすべての情報を揃えられませんでした。次号をお待ちください。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]

## 【ジャグリングと私 ~ 田中聖子さんの場合 ~】

ジャグリングに夢中になってから、1年以上が過ぎました。

そもそも、私がジャグリング中毒になったのは、97年の大道芸ワールドカップに参加する為に来日していた、アメリカ人ジャグラー "THE RASPYNI BROTHERS" の Barry とその奥さん Annie に東京のホテルでカスケードを教えてもらった事がきっかけでした。

私は、96年の1月から8月までサンフランシスコにある Barry のお兄さんの家にホームステイをしていました。

その間に仕事で全米を飛びまわっている Barry は、空港と Barry の家との間にあるお兄さんの家に遊びに来ていました。今も、それは変わっていないそうです。その頃、ジャグリングというものを全く知らなかった私にとって家に来ては、いろいろな物をバランスしたりしている Barry が不思議でした。

初めて Barry のジャグリングショーを見せてもらったのは、ステイ先の子供のバースデイパーティーでのことでした。ピンポンボールを口でのジャグリング、クラブパッシング等。その時は、ただただスゴイと感心していただけでやってみようなんて少しも思いませんでした。今では、私にとって無くしてはならないものになっています。

つい、数ヶ月前までは一人で黙々と練習していて、Eメールで教えてもらったりサンフランシスコに遊びに行った時に Barry と Annie に新しい技などを教えてもらっていましたが、今では、ジャグリング好きの仲間を見つける事ができ、一緒に練習しています。

近いうちにまたサンフランシスコに遊びに行きたいと思っています。こんなに素敵なものを教えてくれた Barry と Annie に感謝しています。

[田中 聖子 <shoko511@quartz.ocn.ne.jp>]

## ジャグリングと私



# サークル紹介

## 【サークル紹介】

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。  
今回は 筑駒Jugglers の紹介です。

なお現在把握しているのは以下のサークルですが、ほかにご存じのサークルがありましたらご紹介ください。（順不同）

### 筑駒Jugglers

筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会 (東京)

<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>……本号にて紹介

所沢 Juggling Club "JUGFLY" (埼玉)……4号にて紹介

<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/~ichiro/juggling/jugfly.html>

綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)……3号にて紹介

<http://super.win.or.jp/~marjie/JAM.htm>

ジャグリングクラブ マラバリスタ Makbaristas (東京)……2号にて紹介

<http://msgkb.ms.u-tokyo.ac.jp/malabaristas/>

ジャグリングサークル JUG (大阪)……1号にて紹介

静岡大道芸サークル WAPS (静岡)

<http://www.bekkoame.or.jp/ro/tomi/waps/>

福岡ジャグリングクラブFC

<http://zodiac30.cse.kyutech.ac.jp/~ooshige/Juggling/index.html>

私立武蔵高校ジャグリング愛好会 (東京)

英和女子短期大学ジャグリングクラブ (山梨)

日本福祉大学大道芸サークル (愛知)

京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts (京都)

大津ジャグリングクラブ (滋賀)

大阪大学ジャグリング同好会 (大阪)

曲芸戦隊ジャグレンジャー (広島学院高等学校)



筑駒Jugglersは東京都世田谷区にある、国立筑波大学附属駒場中・高等学校(略して筑駒 :つくこま)のジャグリング同好会です。

1994年に一度は同好会ができたものの、会員が全員卒業してしまい、一旦消滅してしまいました。しかし97年にジャグリング同好会として再スタートし、98年からは今まで高校だけであった会に中学生も加えて、筑駒Jugglersとなって現在に至っています。当初、数人で始まったこの会も、今では中高合わせて50人弱の大所帯となっています。

普段の練習ではボールやクラブをはじめとして、ディアボロやデビルスティック、シガーボックスなど各自が好きな道具を練習しています。その他にもパルーンの作り方を学んでいる会員もいるようです。

練習は主に、マラバリスタで色々な技を教わってきた会員が、後輩達に教えていくような感じですが、まれに卒業生が指導に来たり、個人的にプロジャグラーのパフォーマンスを見て真似する会員もいたり様々です。

練習日は基本的に週四日ですが、ほとんどの会員が他の部活動と掛け持ちなので、そのうちの都合のいい日に練習をしています。それでも一回の練習に15人程度は集まるので、みな熱心にジャグリングに取り組んでいるといえるでしょう。

このように練習して得た成果は、10月の終わりの学校の文化祭をメインに、保育園や老人ホームでのお祭り、

その他様々なイベントで発表しています。最近では、ゴールデンウィークに行われた鈴鹿サーキット大道芸パフォーマーコンテストで中学生が優秀賞を獲得しました。

この会は学校の部活動の形を取っているので会員は全員筑駒生ですが、マラバリスタにお世話になったり、同じ都内の私立武蔵高校ジャグリング愛好会と交流したりして、多くの人達から良い刺激を受けています。気軽に練習に参加しに来て下さいとは言えませんが、よろしければ10月29・30・31日に行われる本校の文化祭を見に来て下さい。

文化祭の事を含めて、筑駒Jugglersの情報は、  
<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>  
に詳しいので、こちらのほうも是非ご覧になって下さい。

[池山 喜勇 <kiyu@iname.com>]

## 御礼

ディック・フランコ(Dick Franco)さんの奥様であり、アクトの上でも良きパートナーであったカレンさんがご病気との事で、ディックの知人の女性を発起人に有志で千羽鶴を送ろうと、折り鶴を募ったところ合計で1250羽ほど集まり、8月中旬に発送し無事彼の元に届けられました。

(写真は発起人の女性が夏休みをつぶして、心を込めて作った千羽鶴です)

ディックさんもえらく驚いたようで、またカレンさんも「千羽鶴は聞いたことがあるけれど、本物は始めてみました。こんなにたくさんの方が、こんなにたくさん鶴を折ってくれて、その気持ちに報いるためにも、病気と戦います！」と電話口で元気に仰っていたそうです。

我々の願いがきっと叶うことを信じ、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。





# フーズフー

## 【ボビー・メイ Bobby May (1907 ~ 1981)】

彼はまさしく"The International Juggler" と呼ぶにふさわしく、50年の間に35ヶ国以上を回り、アーティストとしてはもちろんですが、ビジネスのショーマンとしても成功をおさめました。またジャグラーの前に紳士である彼は全ての誰からにも好かれていました。

Bobby May(本名Ludwig Mayer)は1907年に生まれ、15才(1922年)にプロとしてデビューし、18才(1925年)には "Joe Cody and Brothers" という2人組で、そして21才(1928年)にはソロジャグラーとして活動していました。

23才(1930年)にロンドンやパリ等初めてのヨーロッパツアーを経験し、以降サーカス、ナイトクラブ、スケートショー(ローラースケートあるいはアイススケートのショー)、バラエティシアターで活躍し、特に海外での活動が多く名声を得るに至りました。

彼は8ボールジャグリングや、ボール1ヶを額でバランスさせながらの7ボールジャグリングができたものの、3ボールと5ボールを最も得意としていました。

彼のルーティンには多くのバウンスによるトリックが含まれ、しかもスピニングがかけられているので、予期せずに彼に戻ってくるといふ意外性のあるパフォーマンスの連続でした。

それはあたかも道具(ボール)を操っているというよりも、ボールがまるで動物のような躍動感あふれる動きをして、そうまるでペットが飼い主にピョンピョンと跳ねて遊びのようにじゃれつく様を連想させるような楽しいアクトです。また、小さなボールを額や頭の左右に自在にローリングさせた初めてのジャグラーとも言われています。

彼は幾つかのオリジナルトリックを考案しています。

例えばステッキ(ケーン)、ボール、ハットの3種でのジャグリングは、とても茶目っ気たっぷりで、あっ・あっ!と思わず声が出てしまうほど意外なトリックの連続で構成されています。

また"The cigarette trick" と呼ばれた、たばこを背中から放り投げ(Behind the Back)、口でキャッチし、その後火

のついたマッチを同じように投げて再度口でキャッチし、手を使うことなくたばこに火をつけるというものも有名です。さらに特に有名なアクトは、オーケストラの演奏にあわせて、頭で倒立して床の置いてあるドラムめがけて3ボールあるいは5ボールをバウンスさせるというものでしょう。

その他にも、ボールやリング等の道具に仕込んだ電球を点灯させ、暗闇で演技する等の斬新な演技やトリックはその後のジャグラーに大きな影響を与えています。

その中でも最も彼の影響を受けたのはディック・フランコ(Dick Franco)でしょう。

ディックは21才(1971)の時から毎週末彼のところに通い技術、演出、ビジネスについて多くを学びました。ディック・フランコの演技にはボビー・メイの匂いを感じることができず。

スケートとジャグリングは非常に相性が良いと思います。彼のスケートイングをしながらのジャグリングをビデオで観て、まさしく目からうろこが落ちました。

身体の上下動が無くスピーディに流れるように移動する彼の身体から繰り出されるボールの軌跡は、劇場のステージでは決して見ることができない優雅で美しいものです。

スケート技術も超一流で、アクロバットもこなしてしまふ彼は、一体何人分の才能を神から授けられたのでしょうか。

そんな彼はこんな事を言っています。

"Natural talent constitutes fifty percent of my success - hard work and constant practice constitute the other half"

### 参考資料

・Juggling Hall of Fame-Bobby May

(<http://www.juggling.org/fame/may/index.html>)

・Bobby May:Obituary from JW

(<http://www.juggling.org/fame/may/obituary.html>)

・Video"Bobby May:America's Great Juggler", 26

minutes, \$45

[安部 保範 <abesan@bf.mbn.or.jp>]

## 本番間近

### 【実行委員長のまだ言えない放題】

今年もドラマが待っています。

かつては名古屋一と呼ばれた盛り場「大須」も戦後の復興期を過ぎると近代化された魅力に乏しいことから街の活力を失い、そこにぎわいを過去のものとしていた。昭和50年6月大須商店街で、学生を中心とした若者たちによる祭「アクション大須」が開催された。

この祭りの計画は名城大学の自主ゼミ「現代哲学研究会」(指導・池田芳一助教授)の都市問題に関する討議から生まれた。「名古屋の繁華街にはうるおいがない。盛り場とは、見知らぬ人が声をかけ合い、ドラマがあるべきだ。」大須の盛り場一帯がゼミの学生の注目を引いた。「大須で祭りをやろう」

この「アクション大須」を契機とし幾たびもの話し合いの末考え出された結論が庶民の街大須に町人文化の復活をそれが「庶民の祭り」町人祭であった。

大須は「巷」、つまり交差する多くの道が交叉する道叉であるから、ふたたび人と人の出会いの場として取り戻すとの認識で、亡びつつある大道芸を呼び集め、天下の大道を舞台とし第1回を昭和53年10月に、「庶民の祭り」は今年10月で第22回を数えるにいたりしました。

一時さびれた街をよみがえらせた祭ともいわれる庶民の祭に難しい理屈はいりません。面白ければ何でもやりましょう。大須大道町人祭実行委員会は考えます。芸人と観客と芸を支える人々が叫び、喜び、嘆き、笑うことそれが大道芸だと。

大道芸は芸人と観客の距離は数メートル。その狭間から生まれるドラマを演ずる芸人も楽しむ観客も心待ちにして大須に集います。

人も予算もありません。いたらぬところは数あります。ほんとうの大道芸を見たいとは思いませんか？

大須大道町人祭<<http://www2.starcat.ne.jp/iida/>>

日時:1999年10月16日(土)、10月17日(日)

ただし10月15日(金)は前夜祭

場所:大須商店街各所

連絡:大須大道町人祭実行委員会

(〒460-0011)名古屋市中区大須3-41-5

tel 052-261-2287/fax 052-241-6222

[第22回大須大道町人祭実行委員長:飯田 俊市

<[shidashi@mxp.mesh.ne.jp](mailto:shidashi@mxp.mesh.ne.jp)>

<http://ohsu.nihon.to/>]





# イベント情報

ジャパン・ジャグリング・フェスティバル1999

10月29・30・31日

府中中央文化センター/府中青年の家

連絡:大村一将<juggling@qf6.so-net.ne.jp>

ヌーヴォーシルク:レ・クザン公演

(<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>)

大阪公演

9月23日・24日・25日 19:00 ~ / 9月26日 15:00 ~

HEP HALL - HEP FIVE 8階 -

山梨公演

9月30日 14:00 ~

山梨・韮崎市文化ホール 大ホール

東京公演

10月1日・2日 19:00 ~ / 10月3日 14:00 ~

赤坂国際交流フォーラム

ACC(tel 03-3403-0561/fax 03-3403-1583)

plan B コメディ・ナイト

9月16日 19:30 ~

plan B (丸の内線中野富士見町駅下車)

ACC(tel 03-3403-0561/fax 03-3403-1583)

plan B (03-3384-2051)

ハンガーマン・ソロライブ

9月28日 19:30 ~

plan B (丸の内線中野富士見町駅下車)

ACC(tel 03-3403-0561/fax 03-3403-1583)

plan B (03-3384-2051)

江戸太神楽若手の会 "DAIKAGURA"

(<http://www.interq.or.jp/www1/kanchang/daikagura/maruichi.htm>)

9月18日 13:00 ~、18:00 ~

上野広小路亭 (03-3833-1789)

チケットぴあ (03-5237-9999)

木下サーカス

(<http://www.icity.or.jp/kinoshita-circus/>)

9月11日 ~ 11月29日

J R 大阪駅前特設会場(06-6377-0333)

キグレNew サーカス

(<http://www.jah.ne.jp/kigure28/>)

9月11日 ~ 10月17日

愛知県豊橋市豊橋駅北広場特設会場・豊橋市民病院

跡地(0532-56-4662)

ザ・ポップサーカス

(<http://www.pop-circus.co.jp/>)

9月5日 ~ 10月24日

福島市黒岩字堂ノ後78・いちい南福島駐車場(024-54

4-2325)

世界マジック・フレンド・コンベンション

(<http://www.magicland-jp.com/>)

10月8日・9日・10日

キャピトル東急(赤坂)

マジックランド(tel 03-3666-4749/fax 03-3666-7306)

大須大道町人祭

(<http://www2.starcat.ne.jp/~iida/>)

10月16日・17日、15日は前夜祭

大道芸ワールドカップ IN 静岡

(<http://www.daidoge.com/>)

11月3日・4日・5日・6日・7日

五人囃子

(<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/accircus/>)

11月21日 群馬県玉村町

11月27日 桐生市市民文化会館

11月28日 群馬県玉村町

12月25日 群馬県東村サンレイク草木

ACC(tel 03-3403-0561/fax 03-3403-1583)

ジャグリングセミナー

講師:石川健三郎

日時:10月13日・27日、11月10日・24日、12月8日の全5回。19:00 ~ 20:30。

受講:14,000円 途中からの受講料は残り回数分(手数料600円)

入会:6,000円 3年間有効

場所:東急プラザビル7・8F(渋谷駅南口)

連絡:東急セミナーBE渋谷(03-3477-6277)

ジャグリングワークショップ

(<http://www.nttl-net.ne.jp/mugongekico/h6.html>)

講師:いばら ツトム

月日:9月3日・10日・17日・24日、10月1日・8日・22日・

29日、11月5日・12日・19日・26日、12月3日・10日・17

日・24日

時間:各回19:00 ~ 21:00

受講:チケット予約制(3回9,000円、5回14,500円、11

回30,000円、16回40,000円)

場所:M G G(JR桜木町、又は京急日ノ出町駅)

連絡:むごん劇カンパニー(tel 045-231-6543/fax 045

-231-5936)

大道芸ワークショップ

講師:北川三橋氏 他

日時:6月25日、7月3日、8月27日、9月4日、9月24

日、10月9日

場所:所沢ミュージアム リハーサル室

内容:ジャグリング、綱渡り、玉のり、皿回し、ローラー

バランス

連絡:(財)所沢文化振興事業団 事業課(042-998-

6500)

JUGGLING 教室 HERO STUDIO

内容:

・ジャグリングCLASS

A 毎週火曜日 13:30 ~ 15:00

B 毎週木曜日 19:30 ~ 21:00

・ジャグリング強化CLASS

C 第1,第3火曜日 15:30 ~ 17:00

・クラウン&キャラクターCLASS(10月から)

D 毎週火曜日 19:30 ~ 21:00

場所:

JR川西池田から徒歩13分・阪急川西駅から徒歩1

6分

阪急バス加茂南口下車徒歩3分

問合せ:HERO STUDIO(ヒーロースタジオ)

(tel&fax 0727-40-3922)

## 編集後記

今夏はユーミンの「シャングリラ」に始まり、デビッド・カッパーフィールドの「U!」、そしてラスベガスでシルク・ド・ソレイユの「MYSTERE」と、立て続けに超ド級のショーを観て感激しっぱなしで、今たまたまがおさまっていません。(イラストは、我茫然自失之図)

ジャグバルは私という一個人が野次馬根性で、単なる趣味として発行しているものです。

従って特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人とは一切関係しておりません。

ジャグリングに関する原稿や情報をお寄せ下さい。ジャグリングを題材としたイラスト、4コマ漫画、川柳なんていうのもいいですね。

編集発行人:安部保範

住所:横浜市栄区公田町424-9(〒247-0014)

PHS:070-5105-5083

Email: abesan@bf.mbn.or.jp

Nifty: QGB02014

Web:(見世物広場) <http://plaza4.mbn.or.jp/chansuke/>

